

緑の宝



2005
新年号
No. 34



厳冬期の富士 御殿場市

目次

会長あいさつ	P2	支部だより	P6
社団法人 静岡県造園緑化協会 会長 乗松文男		中部支部・西部支部	
知事あいさつ	P3	受賞者紹介	P7
静岡県知事 石川嘉延		農林業高等学校実習生リポート	P7～10
部長あいさつ	P4	造園施工管理技士会だより	P10～11
静岡県環境森林部長 花岡志郎		第4回 緑・花文化の知識認定試験 終わる 「竹林との語らい」を終えて (有)旭草園代表取締役 渡辺政和 特別賓客／百葉の長 技士会会長 乗松文男	
造園工事積算実務講習会開催	P5	話題の森・お知らせ・編集後記	P12
指定管理者制度がスタート	P5		
本部だより	P6		

会長あいさつ



社団法人 静岡県造園緑化協会会長

乗松文男

明けましておめでとうございます。会員の皆様には健やかな新年を迎えたことを御慶び申し上げます。

昨年は浜名湖花博の開催に当たり会場内外の協会出展庭園や種々の催事に対しまして会員の皆様には多大な御協力を賜り厚く御礼申し上げます。又、広く県内より多くの企業参加要請の庭園出展にもご協力下さいまして重ねて御礼申し上げます。

振り返りますと昨年は多難な年でありました。異常気象による猛暑が続いたと思えば、類を見ない数の台風の上陸、又新潟中越地震、北海道地震と広く日本国内に甚大な災害・被害をもたらし悪夢のような年でもあります。今年は平稳無事な明るい年でありますよう祈らずにはいられません。

さて、私共業界も相変わらず厳しい一年であります。環境緑化の大しさが叫ばれている昨今にもかかわらず業績は依然として低迷しており、大変な現状の中に立たされているのは、まぎれもない事実であります。

此の苦しい状況下に追い討ちをかけるような受注工事の割れ覚悟の過当競争が行われ、会員間の信頼も損うような

事態が起きており健全な運営とは程遠いものがあります。

このようならなか、本年四月一日より施行予定の「公共工事の品質確保の促進に関する法律」の内容が固まりました。ダンピングや低価格受注の横行により品質確保についての懸念が高まっており、価格競争ではなく、価格と品質が優れた内容の契約、不適格業者の排除等による入札の適正化を図り技術力を重視していく方向が打ち出されました。これ等は我々造園建設業界のみならず広く建設業界全体の問題であり、健全なる業界の発展と会員相互の繁栄の為にも今一度真剣に考え取り組んでいかなければならぬ重要な課題であると思います。

地球の温暖化への対策や多くの人にうるおいと安らぎを与える緑化に直接携わっている我々は、誇りをもって多くの人達から信頼される造園建設業を目指し自信を持つ前進して参らねばならないと思います。

今年も又苦難の中の船出となりましたが、苦しいときはこそ会員が一丸となって力を合わせ英智をしぼり、希望を持つて立ち向つて行かなければなりません。

これからも協会の益々の発展と会員の皆様の繁栄の為全力を傾注し、協会運営に當る所存でありますので、一層の御理解と御協力を御願い申し上げる次第であります。

今年が皆様方にとって明るい年でありますよう願上げ、御健勝と益々の御繁栄を御祈り申し上げ、新年の御挨拶と致します。

草木余話

サギソウ(ラン科)

今年は四年。トリにちなんで植物三種を集めてみました。

一般にシラサギと呼ばれる仲間で白い姿は、コサギ、チュウサギ、ダサギ、アマサギ等がいていずれも水辺で生活する。

植物のサギソウは純白でラン科の

夏緑草。園芸用の採取のために自生地が次々に消滅。静岡県植物流レッドデータブックでは絶滅危惧種に指定されている。今では野生のものを見るより園芸店で見ることの方が多い。

サギソウの名前の由来はシラサギを思わせる純白の花の姿からきていることは一目瞭然。日本を代表するランの一つといつてよい。



知事あいさつ



静岡県知事

石川嘉延

明けましておめでとうございます。

会員の皆様には、新年の抱負も新たに、よい年を迎えたこととお慶び申し上げます。

昨年は、一八七日間にわたりて、しづおか国際園芸博覧会「浜名湖花博」が開催され、来場者も五四四万七千人を数えるなど、盛況のうちに閉幕しました。全国各地からの来場者に、花と緑あふれる静岡県をアピールするとともに、変化に富んだ豊かな県土を他県の皆様にも広く知りていただく、またとない機会とすることができました。

また、緑豊かなまちづくりを推進し、静岡県総合計画に掲げた「水と緑のうるおい空間・景観等の保全と創造」の実現を図るため、平成十七年度から始まる新たな五か年の「静岡県緑化推進計画」策定作業を進めているところであります。

未来の静岡県に、かけがえのない美しい自然を引き継ぎ、守り育していくため、あらゆる場面において緑化の可能性を見出し、また推進していくことが必要であり、そこで貴協会の果たす役割は、ますます増大することと確信しております。

花博の開催に当たっては、貴協会の会員の皆様にも、会場内の緑化工事や緑の相談所の開設、ガイドツアーの実施など、緑化に関する幅広い知識や技能の提供を通して貢献していただいたことに、心からお礼を申し上げます。

県民の皆様が一丸となつて花博を成功に導くことが

できたことは、私たちの大きな誇りであり、今後も維持していくべき財産であると考えております。また、花と緑以外の分野においても、各種の講演や研究会が開催されたことで、本県から全国に向けて様々な情報が発信されました。この花博によって得ることのできる多くの成果を、未来に向けて花開かせることができるように努力したいと考えております。

また、緑豊かなまちづくりを推進し、静岡県総合計画に掲げた「水と緑のうるおい空間・景観等の保全と創造」の実現を図るため、平成十七年度から始まる新

たな五か年の「静岡県緑化推進計画」策定作業を進めているところであります。

日当たりのよい湿原に生え、サギソウが球根で越冬するのにトキソウは横に走る根系で冬を越す。トキソウもサギソウ同様乱獲され絶滅の危機に瀕している。この花まで日本から消滅させではない。



草木余話

トキソウ(ラン科)

ニラボテ・ニラボの学名を持つトキソウは絶滅したが平成十一年に中国政府から送られてきたトキが今では五十八羽にまでふえている。近い将来野生化も検討されている。早く大空を飛翔する姿を見たいものだ。

野草のトキソウは、ラン科に属する宿根草で、名前は花色が野鳥のトキ朱鷺の羽色に近いことに由来する。日当たりのよい湿原に生え、サギソウが球根で越冬するのにトキソウは横に走る根系で冬を越す。トキソウもサギソウ同様乱獲され絶滅の危機に瀕している。この花まで日本から消滅させではない。

部長あいさつ



静岡県環境森林部長 花岡志郎

新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様には希望にあふれた新年を迎えたことをお慶び申し上げます。

また、日ごろから本県の環境緑化行政の推進に多大なる御尽力をいただき、紙面をお借りして厚くお礼申し上げます。

昨年開催された浜名湖花博には、目標である五〇〇万人を上回る来場者を迎えることができました。

貴協会会員の皆様には、花博会場内の緑化工事や「水車小屋のある庭」をはじめとする屋外及び屋内庭園に参展していただき、加えて庭園ガイドや緑化相談所の開設と運営に御尽力ください、本当にありがとうございました。

また、花博会場では、花や緑を愛する幅広い年齢層の人々の活躍を目にすることができたことを印象に残っております。会場案内をはじめ花壇の維持管理、猛暑の中の清掃作業など、延べ二万五千人にも及ぶるボランティアの皆様の協力をいただき、一八七日間の全期間にわたり、花と緑にあふれた美しい会場を維持することができました。まさに、全県民の協働により支えられた参加型の博覧会であった、ということができると思いま

す。さらに、海外二十三ヶ国から出展された国際庭園やナショナルデーなどを通じて、これまで交流することの少なかった国々とも、花や緑を通じて親交を深めることができました。これらのこととは、本県が目指している「魅力あるしづおか」の実現に向けて、今後大きな推進力となっていくであろうと確信しております。

さて、環境森林部も「環境」と「森林」が一体となって三年が経過しようとしておりますが、この間、「連携と融合」をテーマに事業の重点化と新しい仕組みづくりに取り組んできました。平成十七年度は平成の大合併といわれる市町村合併の進展、政令指定都市の誕生、三位一体の改革をはじめとする行政改革や地方分権の進捗など、大変革の大きな節目になるものと考えています。そこで、平成十九年度までの三年間は「新たな挑戦」をテーマとして、新たな仕組みづくりによる持続可能な社会づくりを進めていくことをしております。こうしたことから、美しい国土をつくるためのふじのくに自然景観づくりや地域温暖化対策、持続可能な森林整備システムの構築など具体策を検討しているところです。

昨年の猛暑や数多くの台風の襲来などもあり、地球環境問題が私たちの暮らしに密着した話題として、これまでになくクローズアップされています。また景観緑三法が制定され、県土緑化のガイドブックである「静岡県緑化推進計画」も今年度末で終期を迎えることから、県では改めて今後五か年の緑化ビジョンを明確に打ち出すため、「静岡県緑化推進計画」の改定作業を進めています。

静岡県総合計画に掲げられた「水と緑のうるおい空間景観等の保全と創造」を実現するするために、この緑化推進計画に基づいて、公共施設の緑化・緑化関係団体への支援、花と緑の景観づくりの啓発等に取り組む必要があります。現在は、これらの取り組みが実現するがゆえに、植物がこれまでよりも増えるとともに、山野草として乱獲される現象が野鳥のホトトギスの斑紋に似ていることがあります。ホトトギスは、白地の花を染める斑紋が野鳥のホトトギスの斑紋に似ていることから「杜鵑鳥」の名がある。ヤマホトトギス、キバナホトトギス、ヤマジノホトトギス等多くの仲間がある。これも山野草として乱獲されているが、環境がよければ種子がこれまでいくらでも増えるたましまさを持っています。

草木余話

ホトトギス(ユリ科)

野鳥のホトトギスは鳴き声を「特許許可局」とか「てっぺんかけたか」と表現され、又ツツドリやカガラ、ジウヂチとともに「托卵」といつて他の鳥の巣に産卵して育てる性質を持つ



幸を心からお祈り申し上げ、「あいさつ」といたします。

造園工事積算実務講習会開催



講師の風間伸造氏

普段は、現場で動き回ってい
る受講生が鉛筆と電卓片手に演
習問題に取り組んだ。終了は四
時三十分、慣れないデスクワー
クに現場業務より疲れたようす
であった。

何も造園工事だけのことでは

ないが、最近、低価格入札が横
行し、本当に積算して入札して
いるのか、利益を上げて再生産
に投資できるのかとの声を聞く。
片方では、公共単価が下が
つて困るとも聞く。

風間伸造氏を迎えて十一月二十
日、静岡県もくせい会館で終
了した。協会にとっては久
しぶりの積算講習会で会員五十
五社が熱心に講習を受けた。

開講に先立つて乗松会長から、
最近の低価格入札にふれ、
自らの経験から「どうやればいい
か」とのアドバイスを述べた。乗
松は、積算の基礎知識から、積算
の実際まで、丁寧に説明した。

熱心に受講する会員

指定管理者制度がスタート

指定管理者制度については全国的に関心が高まっている
が、静岡県でもその制度を導入する県営都市公園富士山こ
どもの国（富士市桑崎）の説明会が十一月九日、同公園で開
かれ協会会員も含めた造園、建設、観光などの県内外の業
者四十六団体、八十五人が参加した。

指定管理者制度は、平成十五
年六月に改正、九月一日に施行
された地方自治法によって、こ
れまで公の施設の管理は「自治
体直営」か「公共公益団体」への
委託管理でなければならなかつ
たものが「地方公共団体の指定

する法人、その他の団体」とな
り、民間事業者も公園の管理に
直接参加できるようになった。

このため、公園緑地の管理業
務は、今後、大きな転換が予想
される。その施設に指定管理者
制度が導入されないと、指定管
理者に指定されないと、直接
業務を受注することはで
きなくなる。

資金を調査して決定している。
その資金単価で積算されて発
注された工事をたいてい受注す
る。安い資金を支給する。翌年
も国土交通省の調査がある。再
び下がる。まさしく悪循環で貨
格で入札することである。

金が上がる事はない。このよ
うな状況から一刻も早く脱出
しなければならない。それには
どうすればいいのか。適正な価
格で入札することである。



県民の森ロッジで行われた説明会

十一月九日に開催された「富
士山こどもの国」では、管理業
務を直接受託する指定管理者
になることをを目指して、四十六
団体も参加したが、管理の中身
の開催、園地の管理等々複雑多
岐に及んでいる。
その後、環境森林部の所管す
る「静岡県立森林公園」（静岡県
県民の森）でも指定管理制度導
入を検討しており、十一月十六
日と十七日に現地説明会があ
り、会員を始めさまざまな業
界の方の参加があった。

指定管理者になるには定め
られた管理計画書を提出して
選ばなければならない。一旦
選ばなければならぬ。一旦
選ばれば、一年で終ることは
ないであろう。富士山こどもの
国は管理期間を五年間と定め
ている。各会員は、今まで係わ
っていた公園緑地がどの形態で
管理されいくのかしばらくは
常に注視しなければならない。



熱心に説明を聞く参加者(県立森林公園)

本部だより

技術委員会

花壇作りと管理の基礎を学ぶ

九月十三日に本年度三回目の技術委員会を開催し、「もてなしの緑空間つくり事業の管理の徹底」とシニア・ワークブロック

ラム事業の残余工場の運営について打合せを行った。

管理については、いつも堅固な樹木ばかり取扱っている会員にとって、弱々しい草花を相手に苦労が絶えない。水不足で指摘



深本講師から管理の手ほどきを受ける

(株)志太フラーの深本伊一郎氏を講師に花壇作りと管理についての勉強会を開催。植栽にあたっての配色や、二色配色、三色配色等配色の基本、季節によって配色を変える等樹木とは、それに加えて各草花の草丈も知らなければ配植はできない。植栽後の花がら摘み、切り戻しも少くことの出来ない作業である。

管理ももうすぐ終る時期での研修、遅すぎたが全員熱心に聴講し、質疑もを行い、有意義な勉強会であった。

中部支部だより

中部支部

静岡市立日本平動物園で一日奉仕活動

中部支部 桜井淳支部長)で

は、九月七日~十日の四日間、静岡農業高等学校の環境系生徒三十八名の実習生を十六社受け入れた。

七日から九日までの三日間は各社に分散しての実習を行い、最終日は、中部支部全会員(四十八社)と実習生全員が静岡市立日本平動物園に集合し、生徒



作業開始前のあいさつ

電子入札講習会を開催
西部支部では九月二十一日、浜松市地場産業振興センターで講師に静岡リコ一株を迎えて、電子入札講習会を開催した。

西部支部



真剣に取り組む受講生

当社が参加して、パソコン十八台を使っての実技講習。パソコン一台数より受講者が多く一台に一人の付くグレードも出現。

最初にCALS/ECについて学び、次に電子入札の仕組み

最後に電子入札の操作を体験して終了。受講者のほとんどは、講習会は参考にならなかったようであるが、電子入札への対応度については、ICカード取得済み二社、同申請予定が二社、残りはこれから

は実習最後の仕上げとして会員各社とともに奉仕活動に汗を流した。当日は、桜井淳支部長のあいさつと作業上の注意のあと園内に立ち、会員の指導を受けながら剪定、刈込み、除草等の作業を行った。学校でやる実習と異なり、大人にまじっての実習、少々緊張しながらも一生懸命であった。



会員の指導を受けながらの刈込作業

受賞者紹介

西野勢作氏（株）西野造園代表取締役



宮地和好氏（株）江間種苗園



西野勢作前会長が平成十六年度静岡県知事賞の栄誉に輝きました。おめでとうござります。

西野勢作氏は（株）西野造園代表取締役で、協会会長でもあった。今までの環境緑化に対する功績が認められ、環境保全労働者として十一月三日の文化の日に表彰されました。

西野氏は、昭和三十年に西野造園に勤務、昭和五十年に（株）西野造園を設立、社長に就任。公にあっては、静岡県造園建設業協会監事、静岡県環境緑化事業協同組合理事、同副理事長、（社）静岡県造園緑化協会副会長、同会長等を歴任している。その間、静岡市民にとって風物詩ともなった駿府公園での緑化木展示即売会の開催、二〇〇一年のしおか緑化祭、二〇〇四年の国際園芸博覧会（浜名湖花博）に業界をまとめて盛り上げ成功的原動力となつた。

平成十六年度の静岡県優秀施工者知事顕彰候補者に、協会から西部支部（株）江間種苗園宮地和好氏を推薦していたところ、そ

の功績が認められ、昨年十一月十八日、しづぎんユーフォニアで開催された、平成十六年度建設産業構造改善のつどいの席上、静岡県土木部長から表彰されました。おめでとうございます。

宮地氏は、造園・土木一級の施工管理技士の資格を有し、長年の現場経験をもとに優れた技術と管理能力を生かし、現場代理人、主任技術者として造園工事を施工するとともに、技術や安全面における後進の育成指導にも努めている。特に、浜名湖花博会場では、生育が困難ではないかと予想された竹林造成において技術力を如何なく發揮し、一〇五平方メートルの竹林完成に貢献した。

● どんな作業でも生半可な気持ではできない
この四日間はとても充実した四日間でした。県立静岡農業高等学校二年長選考司が実習の実習は長い時間で、作業についていくので精一杯でした。

実習の日目は早朝刈機で刈った物をすくとクマデで集めて、敷地にて、広く、袋、集めても集めてもまだあるといった感じで気が遠くなりましたが、しかしこれが造園の基本で大切なことを身をもって知りました。たぶん、芝が草で埋めることを心がけましたが、芝が悪い通りに集められて苦労しました。草刈機も実際に使わせていただき、いい勉強になりました。

二日目、一日目とヤギの剪定を行いましたが、ケヤキは高くて、ハシゴを登っているときでも怖かったです。作業中は安全帯をつけていましたが、それをつけていると、とても安心していました。

本年も農林業高等学校の環境系生徒の現場実習実施のため最寄りの会員が受け入れた。静岡農業高等学校では十九名の生徒を中部支部会員六社が、磐田農業高等学校では五名の生徒を同じく西部支部会員三社が受け入れた。実習期間はいずれも四日間。将来の造園建設業を担う生徒から思いのぞきの感想文をいただきましたので紹介します。ありがとうございました。

農林業高等学校実習生リポート

心で、安全帯があるとなるといつては、精神的にも大きな役割があると思いました。これだけ高い木登るの、たいたい木は茎に登るようになると思います。事業所の方々はもっと高いところで、たいたい木を切っていて、やはり長い間の作業と経験が必要なんだと感じました。作業中に虫に刺されてしまい、そういうところでも注意が必要だといい勉強になりました。

四日目は本物の動植物園でサンカの剪定をしましたが近くから見ただけで整っているように見えても全体的に見るときついに整っていないかったり、全体をきれいに整えるのは大変でした。午後にはウメの剪定をしましたが、ウメの剪定はやつたことがなくてどうしたらいいのか戸惑いましたが周りの人から剪定の仕方を教えてもらい貴重な体験をさせていただきました。

どんな作業でも生半可な気持では、造園の作業はできないと感じました。この四日間でいろいろなことを教えてもらい、現場の厳しさも知りました。この実習を今後に生かしていきたいと思います。

●仕事をなし遂げた喜びを味わう

県立静岡農業高等学校二年
高田真吾

この四日間は普段の授業よりも緊張を持った作業をすることができました。この四日間を通していろいろなことを学ぶことができました。大変なことがありました。しかし、それからも授業で詳しく学んでいますが、授業に積極的に取り組んでいきたいです。

この四日間は普段の授業よりも緊張を持った作業ではないと思います。なので普段でやる時に大事なことがわかったような気がします。除草や片付けなどは楽しい仕事ではないと思います。でもそういうことがちゃんと心地良くて私は思いました。どんなことを上に遺園の仕事に興味を持つことができました。これからも授業で詳しく学んでいますが、授業に積極的に取り組んでいきたいです。

●後付までてきて一人前

県立静岡農業高等学校二年
山崎大地

この四日間はとても充実していました。一人だったこともあり直接わからないことも聞いて、普段は学校でやることと違い相手側は仕事でやっていることなので、自分も実際に身につかりて過ごせることができたと思います。遺園のことも教えてもらおうが、社会見習いが必要な、礼儀やあさつきについても教えてもらおうことができました。

●現場実習で思つたこと

「自分の夢」
県立磐田農業高等学校
環境科学科二年
鈴木雅也

この四日間は日本平動物園でツツジの刈り込みや落葉の片付けを行いました。この日の大部分が片付けでしたが、やったところを見るときれいになっていたのでやつてよかったと思いました。

この四日間は日本平動物園でツツジの刈り込みや落葉の片付けを行いました。この日の大部分が片付けでした。そのため、やつたところを見るときれいになっていたのでやつてよかったと

思いました。

この四日間は日本平動物園でツツジの刈り込みや落葉の片付けを行いました。この日の大部分が片付けでした。そのため、やつたところを見るときれいになっていたのでやつてよかったと

思いました。

私は中学生の頃から、父の後を繼

ぐために遺園業をしようと思っていた

私はずっと父は遺園業のよ

うな仕事を張った仕事好きでできない

私の仕事が自分は好きなんだ

う気持ちは前より一層強くなること

がわかったままです。

私が四日間仕事を体験して思う遺

園業の良いところは、まずお客様に

喜んでもらえるということです。や

く、自分が一生業界やったところ

がわかったままです。

私は中学生の頃から、父の後を繼

ぐために遺園業をしようと思っていた

私はずっと父は遺園業のよ

うな仕事を張った仕事好きでできない

私の仕事が自分は好きなんだ

う気持ちは前より一層強くなること

がわかったままです。

私が四日間仕事を体験して思う遺

園業の良いところは、まずお客様に

喜んでもらえるということです。や

く、自分が一生業界やったところ



草刈り作業

ついていたと思いました。

他に、せん定や整枝をした後の片づけをしてやりにするという仕事をしました。その仕事が終わった後を感じた達成感が今まで一度も感じたことのない達成感で、とても心地良くて私は思いました。どんなことを思いました。そしてその人は、人間的にも素晴らしい人だと思います。

なので四日間で遺園で大切なことを学んでいますが、授業に積極的に取り組んでいきたいです。

ないかと、続けていく自信がなくなってしまうかもしかったです。実習を通してとてもためになることを学ぶことができたと思います。

四日間のお世話になりました。なにか機会がありましたら、そのときはよろしくお願ひします。本当にありがとうございました。

● 現場実習の感想

県立磐田農業高等学校

環境科学科二年 戸澤信弥

今回の現場実習では造園の企業の仕事の内容を知ることはもちろんですが、それ以上に企業の仕組みを少しでも知れたかなと思います。我々行ったところは社員三人の身教で鏡の会社ですが、それだけに身近に仕事を見見することができました。

まず一番感心を覚えたのが、社長

刈込みと同時にツルの除去も

この大切さを感じました。手入

道具といえどこんな話を聞くこと

が出来ました。造園の仕事では、刀

の道具が多岐あり、チエソーナ

などの道具がなければ仕事になりませ

ん。ですが、そういう道具をただ使

利だと思いついたら大間違い

ある社員の方は以前チエソーナで足

を切つてしまつたことがあると話して

くれました。幸いなのは、怪我になか

つたそうですが、間げば聞くほど変

ふする話です。また、ゴミ収集車で足

非常に危険なものです。子供の頃、

身近に見てたあの車はかなり危険な

もので、人一人の生命を奪うことな

ど容易なことです。便利さだけを追

求したところで、その反動を忘れていたなどです。社員が少なく自分一人が一番の実力者というのもあり、自分がやらなければどうにもならないことを自覚しています。何より大切に思いますが、自らが金を引つづいています。ですが、自らが金を貰つているという自覚から積極的な仕事ぶりには感動を覚えました。ただ椅子に座って、言うだけ言って何もしない代表者というイメージとはほど遠く、このような姿勢ならば社員がついてくるはずです。会社内の社長と社員の信頼関係というは、意外にも一番機会の多い仕事中に生まれるといふことを感じました。また、誰にも迷惑をかけたことはないませんでしょ。別にこの仕事だけではないですが、社会は流した汗の分だけ周囲に評価され、給料になる厳しい世界。

会社はサボったところで誰にも迷惑をかけたことはないですが、自分がサボったときに迷惑がかかり、仲間に迷惑がかかり、ときには会社に損害を負わせてしまうことだってあるのです。甘えの許されない世界を垣間見た気がします。

「良く切れれるなあ」と思わず言つて、手を入れて見つからね。毎日のようになれば大切に手入れすれば何年だら持つよ」、これらの言葉で道具への皆さんの思いが伝わりました。手入

道具を知りました。

● 現場実習を終えての感想

県立磐田農業高等学校

環境科学科二年 中村正志

この四日間の現場実習を終えて、自分の「外でやる仕事」というものの考え方が変わりました。今までの「外でやる仕事」の自分の考え方は、つらい、苦しい、大変だけれど、生活のためにするというものでした。しかし現場実習でその考え方が少し変わりました。

今回自分は、造園業を営むの勉強

しているのではなく、この現場実習で思

うようになりました。

自分がある。本当にやりたい仕事は

他にはないかもしれないと思えるよ

うになりました。

現場のノルマに合わせながらやりい

いとこで休憩でき、町もきれいにす

るようになります。だから、造園業のよう

● インターンシップ研修に参加して

県立天童林業高等学校

環境システム科三年 志水広幸

私は四日間のインターンシップ研修

を庭明さんの指導を頼んで、浜名湖

館山エンバイオホルムの庭園改修工

事作業を手伝うことになりました。

他の友達は一人グループで研修でした

が、私は一人で研修することにな

り、少々心細くはありました。が、一

生懸念に頑張つたつもりです。

研修の内容は中庭の植樹として植

なということに。

この四日間の短い期間ではあります

が、とても充実した作業をさせて

いただきました。本の剪定だけではなく、仕事というものは、やはり全員の

まともがないとやっていけない、と

いうことを教えて貰いました。

そう考へられるようになれば、

わざわざ来てくれたのには、

本当に感謝です。まだまだ仕

事は続続し長く勤めていかなければ

本当の仕事というものがわからない

勘定では、一日に剪定する木の量が

決まっていて、そのノルマに合わせて作

業をしていくというものでした。目標

がある、それだけで仕事は楽しく気

合を入れて作業をすることができま

した。無意識で、大変なつらいな

という考えはありませんでした。

た休憩中に、植樹の駒人さんが「外

の仕事は、中の仕事と比べて気楽で

いぞ」と言つて聞いていました。

本当に夏でもしないなど見えました。

夏は暑い太陽の下、冬は気

温の低い寒い中、大変かかもしれないけれど、外の空気を吸いながら作業し

いと云ふことで、町もきれいにす

栽されたレッドロビンの移植、遮蔽板

設置のための測量と支柱立てのための掘削工事をひと通りいました。

ホテルの中庭での作業なので、限られた面積に重機をもどり運びました。

ホルムの回りを汚さないように、傷つけないよう配慮するには驚きました。

いつもの学校の実習では広い敷地で創立八〇周年記念園作りをしました。

ただ、この年は雨が多く、なかなか進まなかったのです。そこで、雨天の中でも作業を続けました。

うした悪条件の時こそ慎重に作業を進めるよう指導を受け、雨ガッパを着て雨風をまし、一応計画通り作業が進められ、遮蔽板の支柱を立てる手際の良さには驚きました。

雨天の中でも作業を続けました。この

● インターンシップに学んだこと

県立天竜林業高等学校
環境システム科三年 平野光一

私は六月八日から四日間、三人で

ターン制で福井造園にイン

した。学年の授業「実習課」は大分違う心もちで仕事をさせて貰いました。何と言つても気持ちに余裕がないくらい緊張していましたし、体験時

間でも仕事の内容を考えなくちゃいけないなと思う程、作業能率を気にしていました。

どんな点が学校の授業・実習と違

うかと考えてみますと、決められた時

間内に仕事をやり遂げなければいけない点だと思います。学校では先生が大体の能率を考えてくれるし

時間が来れば仕事途中でも終了し

て教室に戻していくわけですから、か

なり楽をしていたと感じました。弊

田市内の安芸松公園での樹木管理、

は広い芝生の補修とりししながら、

松クイ虫の防除のために殺虫剤「ダ

イジストン」を散布したのですが、農

薬の知識もほとんどないのが恥ずか

な取扱だと思います。

多分私を研修に受け入れてくれる前にいろいろと、高校生に合った仕事を準備して下さったんだろうな? 今に

なると思いますが、インターンシップでのだけ解りました。四日間のうち

で感じた仕事に対するという感動を忘れずにいたものだと思いました。

いろいろと指導して下さって、ありがとうございました。



実習で作った庭

この試験は、造園施工管理技士認定試験は今回で六回目を迎え、試験実施の広報から管理運営までまかせられた(社)静岡県造園緑化協会は、試験官に造園施工管理技士会常任理事に委嘱、十一月十四日に静岡市宮前町の東海短期大学で実施した。受験生は、一六三名であった。

受験申込者は全国で一〇、九五〇名、静岡県は三九七名、内、東海短大会場では一八四人の受験申込者名はもとより、植物に関する知識文化について学ぶために行われる。

第六回 緑・花文化の知識認定試験終る

造園施工管理技士会だより



実習で作った東屋

二さんにもお礼を申し上げます。



試験で作った東屋



入念な試験問題用紙数のチェック

間から五級にランク付けされると緑化文化士の称号が与えられる。第五回までの全国で誕生した緑化文化士は八千五百名、内、静岡県では三名いる。その中に植物博士で知られる会員、林ひかり造園の小林庄次郎氏がいる。

全国一斉に実施されるこの試験は、クラス毎に指名された問題が十二時一度に配達され、受領したら

教室内との枚数を予めして、午後二時全国一斉に開始、問題は八〇問を五者択一方式で七〇分で解く。

今回は、地元紙以外にNPOテレビ
ドラマで試験実施の広報をしても
うらが受験者数はほぼ昨年並みであ

た。渡邊さんから寄稿いただいたので紹介します。

技術会員(有)旭華園
庭アリアに「竹林との語らい」のタイトルで庭園を出展し、
とにかくパシフィックフローラ名賞を得られ、その賞金を緑化
に役立てて下さいと(財)静岡県グリーンバンクに寄贈されまし
た。渡邊さんから寄稿いただいたので紹介します。

「竹林との語らい」を終えて

生活空間計画室 富士市(有)旭華園
代表取締役 渡邊政和

四月、フジザクラの枝を生けてか
ら開催した花博も、大盛況の中に閉
会を迎え数ヶ月経ちました。この原
稿を書いている今ではモミジの紅葉
が終わりを迎えています。開催期間
中は常に全てを出し切った。悔い
は無い。と、気の張り切めた半年間

ではありました。追い求めても、満
足しきせない職人の性とでも申し
ましようか。今、作業品質とならめ
こをしていく。やはり物足りなさ
が心に残ります。造園と向き合う
日々は常に新鮮で、刺激的で、勉強
させられることが多かったです。
私にとっての、この一ヶ月間は、そ
れだけではなく、自分を再度見つめ
なおす良いきっかけとなり、とても意
義のある時間であったと実感してお
ります。このような場を設けていた
各機関の方々に対しましては、
心から感謝しております。

当社の出展作品「竹林との語らい」
は、平成十三年から計画してきたも
のです。この始まりは専門校の講師を
して頂いた私の先輩と協同で
「しづおか緑・花・祭に参展しまし
た。先輩との造園議義の中で造園を
目指す学生たちには、デザイン論だ
けでなく現場を知ることが重要だと
しかしながら、専門学校のカリキュラ

つた。十七年の試験日は十一月十三日
と決まっている。もうともっと多くの人
に緑花に同心を持つてもらいたい。



作庭メンバーの皆さん

この中では、本格的な現場体験がで
きる場に限りがある。という実情を
聞きました。私は以前から、「ものづ
くり」はデザインと施行の相互関係
がうまく切り立たねばいけないのは作
業の行いと考えています。つまり、現場で
施工を行って、それを現場体験で進
めてみようということで、平成十三
年より当社事務所周囲植栽工事を皮
切りに、この「竹林との語らい」プロジ
エクトが実現しました。

エクイティが実現しました。
「竹林」とは、竹林をベースに寂寥な
空気の中につづりと流れる四季の
移ろいを感じてもらえるような空間
造りといいます。つまり今までよりも
多い各機関の方々に対しましては、
心から感謝しております。

この花博に出展したと云う事で、
私としては、庭園道のひとつ目の節目と
して、また、当社のスタッフとしても、
庭づくりにおける鍛錬をもつこと

で、完成度が高まつていくということ
を実感してもらえたのではないかと
思います。造園デザインを目指す学
生たちは、造園仕事を成し遂げた
充実感と、現場体験を通じていく中
で、机上のデザインを越えた素晴ら
しいものに結びついでいくこと心か
頼っております。そこで、名賞を貢
献して顶きましたが、街
づくりの緑化基金に寄付させていた
だきました。是非、潤いある街づく
りのお役立てにしていただきたいと
心より願います。今後も次なる節目
へ向かって旭華園は精進していくた
いと思います。

特別寄稿

百葉の長
技術会会長 乗松文男

自駕芸軒の「養生訓」の中で

われています。此のようないでの

酒が良い悪いとは一概には言え

ませんが、好みに合せて飲むのが

一番であり、大切な事は飲み過ぎ
ない事であり、ゆっくり楽しめ

ながら飲み方を「ラッスよくす
り、肝臓を休ませる為にも最適
でも週一日は飲まない日を設け
ることを忘れないれば、酒は止

めぐくくり時間をかけて「おちよ
の」のよう小さな時間で少しず
つ飲む習慣が今も受け継がれて
います。日本酒やワイン、ビール
などの醸造酒は原材料から多く

なりが飲み方を「ラッスよくす
り、肝臓を休ませる為にも最適
でも週一日は飲まない日を設け
ることを忘れないれば、酒は止

めぐくくり時間をかけて「おちよ
の」のよう小さな時間で少しず
つ飲む習慣が今も受け継がれて
います。日本酒やワイン、ビール
などの醸造酒は原材料から多く

なりが飲み方を「ラッスよくす
り、肝臓を休ませる為にも最適
でも週一日は飲まない日を設け
ることを忘れないれば、酒は止

めぐくくり時間をかけて「おちよ
の」のよう小さな時間で少しず
つ飲む習慣が今も受け継がれて
います。日本酒やワイン、ビール
などの醸造酒は原材料から多く

なりが飲み方を「ラッスよくす
り、肝臓を休ませる為にも最適
でも週一日は飲まない日を設け
ることを忘れないれば、酒は止

めぐくくり時間をかけて「おちよ
の」のよう小さな時間で少しず
つ飲む習慣が今も受け継がれて
います。日本酒やワイン、ビール
などの醸造酒は原材料から多く

なりが飲み方を「ラッスよくす
り、肝臓を休ませる為にも最適
でも週一日は飲まない日を設け
ることを忘れないれば、酒は止

めぐくくり時間をかけて「おちよ
の」のよう小さな時間で少しず
つ飲む習慣が今も受け継がれて
います。日本酒やワイン、ビール
などの醸造酒は原材料から多く

なりが飲み方を「ラッスよくす
り、肝臓を休ませる為にも最適
でも週一日は飲まない日を設け
ることを忘れないれば、酒は止

めぐくくり時間をかけて「おちよ
の」のよう小さな時間で少しず
つ飲む習慣が今も受け継がれて
います。日本酒やワイン、ビール
などの醸造酒は原材料から多く

なりが飲み方を「ラッスよくす
り、肝臓を休ませる為にも最適
でも週一日は飲まない日を設け
ることを忘れないれば、酒は止

めぐくくり時間をかけて「おちよ
の」のよう小さな時間で少しず
つ飲む習慣が今も受け継がれて
います。日本酒やワイン、ビール
などの醸造酒は原材料から多く

なりが飲み方を「ラッスよくす
り、肝臓を休ませる為にも最適
でも週一日は飲まない日を設け
ることを忘れないれば、酒は止

めぐくくり時間をかけて「おちよ
の」のよう小さな時間で少しず
つ飲む習慣が今も受け継がれて
います。日本酒やワイン、ビール
などの醸造酒は原材料から多く

なりが飲み方を「ラッスよくす
り、肝臓を休ませる為にも最適
でも週一日は飲まない日を設け
ることを忘れないれば、酒は止

めぐくくり時間をかけて「おちよ
の」のよう小さな時間で少しず
つ飲む習慣が今も受け継がれて
います。日本酒やワイン、ビール
などの醸造酒は原材料から多く

なりが飲み方を「ラッスよくす
り、肝臓を休ませる為にも最適
でも週一日は飲まない日を設け
ることを忘れないれば、酒は止

めぐくくり時間をかけて「おちよ
の」のよう小さな時間で少しず
つ飲む習慣が今も受け継がれて
います。日本酒やワイン、ビール
などの醸造酒は原材料から多く

なりが飲み方を「ラッスよくす
り、肝臓を休ませる為にも最適
でも週一日は飲まない日を設け
ることを忘れないれば、酒は止

めぐくくり時間をかけて「おちよ
の」のよう小さな時間で少しず
つ飲む習慣が今も受け継がれて
います。日本酒やワイン、ビール
などの醸造酒は原材料から多く

話題の森

三島でシンポ「風やにおいても判断条件」



静岡県の景観を考える
「オルティス・ラーション」

地域色生かし景観形成

「美しい国づくり」静岡県の景観
を考へる」をテーマにした景観シン

ボジウム(県主催)が二十六日、三

島市民文化会館で開かれた。富士山

などの大自然や県内各地域の特色に

合せた景観づくり、地域住民による

景観形成の可能性など、さまざまな視

点から景観についてパネリストが論

じた。

石川嘉延知事はあいさ

竹内宏静岡総合研究機

構理事長、松下秀樹県立

大名書教授、川口宗敏静

岡文化芸術大学大学院教

授がパネリストを、経済

形

景観を実現するためには、知識

を加えていくことが重

要。県民がふるって景観

形成に興味を持ち、いい

景

を実現するためには、知識

を加えていくことが重

要。

恵を出しながら取り組む

ことが大切。十年、二十

年後に取り組みの差が出

てくる」と約三百人の参

加者にシンポの狙いを説

明した。

美しい県づくりをテーマに話し
合うバナリストは三島市民文化会館

内氏は「美しい景観は都市、

まちがコトディイナー」

と強調した。

美しい景観とば

は「経済に左右されな

い公共財を進む文化財

を残すといつても、確

固たる指針を持つこと」

を強調した。

竹内宏静岡総合研究機
構理事長、松下秀樹県立

大名書教授、川口宗敏静
岡文化芸術大学大学院教
授がパネリストを、経済

形エッセイストの秋岡栄子
エッセイストの秋岡栄子

は「経済に左右されな
い公共財を進む文化財

を残すといつても、確

固たる指針を持つこと」

を強調した。

花と緑の講演会を次により開催し
ます。聆听者は会員そのほかなどな
ども結構です。多数の聴講をお待
ちしております。講師は浜名湖

花開好評であった国際花の交流
館の主催者展示のデザイン及び
施設監修を担当された辻本智子氏

辻本氏は「いい景観は
視覚だけでなく風やにお
いなどを総合して判断し
たい。連続性、連鎖性を
考えながら地域に適した
景観を考えていいくべき」

景観形成には産業界や民
衆を入れて取り組む必要が
ある」と指摘した。

建築家でもある川口氏

は「経済に左右されな

い公共財を進む文化財

を残すといつても、確

固たる指針を持つこと」

を強調した。

花と緑の講演会を次により開催し
ます。聆听者は会員そのほかなどな
ども結構です。多数の聴講をお待
ちしております。講師は浜名湖

花開好評であった国際花の交流
館の主催者展示のデザイン及び
施設監修を担当された辻本智子氏

辻本氏は「いい景観は
視覚だけでなく風やにお
いなどを総合して判断し
たい。連続性、連鎖性を
考えながら地域に適した
景観を考えていいくべき」

景観形成には産業界や民
衆を入れて取り組む必要が
ある」と指摘した。

建築家でもある川口氏

は「経済に左右されな

い公共財を進む文化財

を残すといつても、確

固たる指針を持つこと」

を強調した。

花と緑の講演会を次により開催し
ます。聆听者は会員そのほかなどな
ども結構です。多数の聴講をお待
ちしております。講師は浜名湖

花開好評であった国際花の交流
館の主催者展示のデザイン及び
施設監修を担当された辻本智子氏

辻本氏は「いい景観は
視覚だけでなく風やにお
いなどを総合して判断し
たい。連続性、連鎖性を
考えながら地域に適した
景観を考えていいくべき」

景観形成には産業界や民
衆を入れて取り組む必要が
ある」と指摘した。

建築家でもある川口氏

は「経済に左右されな

い公共財を進む文化財

を残すといつても、確

固たる指針を持つこと」

を強調した。

平成16年11月27日 静岡新聞

お知らせ
◆新年賀詞交換会を次により開催し
ます。
会員多数の御参加をお願いします。
●開催日 一月十九日(木)
●時間 十二時より

●場所 JR静岡駅北口
ブケ東海静岡
◆花と緑の講演会を次により開催し
ます。聆听者は会員そのほかなどな
ども結構です。多数の聴講をお待
ちしております。講師は浜名湖
花開好評であった国際花の交流
館の主催者展示のデザイン及び
施設監修を担当された辻本智子氏

景観三法の施行を五日後に控えた11月26日、会員も参加して三島市民文化会館で景観シンポジウムが開催された。

日本の景観、特に都市景観は貧弱である。単に地上ケーブルを地下ケーブルにすればよいというものではない。地下ケーブルにして街並みはすっきりしたが緑は全くない。また既存の街路樹も景観形成上重要な役割を持っているにもかかわらず、それを果たすような管理がされていない。都市景観が向上するような公園、街路樹にしたいものだ。